令和６年度秋の研究会大会　美的感性研究会・色覚研究会共催講演会

# 顔を探求する：科学で解き明かす顔の知覚・認知・感性

本講演会は，顔に関する様々な話題を取り上げ，顔の知覚と認知，顔の印象と評価について，科学的に明らかになった事柄を，４名の若手研究者からご講演していただきます．本講演会が扱うのは，私たちが日常的に見ている「ヒトの顔」だけではありません．絵の中に描かれた顔，ロボットや CG 映像などのヒト型エージェントの顔，絵文字の顔も取り上げます．顔にまつわる様々な側面を，切り口を替えながら解き明かすことで，「顔」研究の面白さと奥深さに触れていただくことができるはずです．

■ **主　催**　一般社団法人日本色彩学会（美的感性研究会，色覚研究会）
■ **日　時**　12 月 1 日（日）13:00-16:25
■ **会　場**　オンライン（Zoom ミーティング）
■ **参加費**　研究会大会の参加費に含まれる
■ **参加方法**　**1**）下記の参加登録者限定 Web サイトへアクセスする
https://color-science.jp/kentai2024/member2024/live2.html#session5
**2**）Zoom リンク（ページ下部に掲載）をクリックする

■ **招待講演(1)**　何 元元 氏（宇都宮大学 工学部・助教）
**肌の色が顔の見えに与える影響の国際比較**（13:05～13:50）

本研究では，肌色変化が顔の見えに与える影響を異文化間で比較しました．結果の一部では，東アジアの被験者は赤味を帯びた肌色をポジティブに評価する傾向が強く，一方でコーカシアンの被験者は黄味がかった肌色により好意的な印象を持つことが示されました．この結果は，国籍的背景が顔の印象に影響を与えることを示唆しています．肌色に対する認識は生活環境や国籍によって異なり，その影響をさらに検証することで，多様な背景を持つ人々が共に暮らすグローバルな社会において，文化的多様性に対応したアプローチが重要であることが示されました．

■ **招待講演(2)**　谷山 祐真 氏（産業技術総合研究所 人間拡張研究センター・特任研究員）
**何故モナリザは左向きなのか？～顔らしさが左向き選好に及ぼす影響～**（13:55～14:40）

モナリザは私達から見て左を向いているが，16-20 世紀の西洋絵画はモナリザのように左向きの顔を描いた肖像画が多いことが知られている．また，このような左向きの顔は右向きの顔よりも好まれるといった選好の偏りが存在する．本講演では，何故左向き選好が引き起こされるのかという問題について，「① 左向き選好は顔特有の効果か」，「② 顔処理における脳の右脳優位性が影響しているのか」の 2 つを心理学・生理学的手法を用いて調査した実験から説明する．

**■ 招待講演(3)**　田和辻 可昌 氏（東京大学 大学院工学系研究科・特任助教）

**ヒト型エージェントに対する否定的応答生成過程を説明する計算モデル〜不気味の谷現象の理解に向けて〜** (14:50〜15:35)

人間の外見を模して作成されたロボットや CG 映像などのヒト型エージェントに対する否定的な応答は「不気味の谷」現象として知られている．この現象が生じる要因やメカニズムの解明を目指して，これまで心理学，認知科学，神経科学など多様な分野がこの現象の理解に取り組んできた．本講演では，これまでの不気味の谷に関する研究の概観を説明し，講演者が取り組んできた，不気味の谷に関わるヒト型エージェントに対する否定的応答の生成過程を説明する計算モデルについて説明する．

**■ 招待講演(4)**　沓澤 岳 氏（産業技術総合研究所 人間拡張研究センター・研究員）

**絵文字でココロを探る〜絵文字による感情測定の可能性〜** (15:40〜16:25)

日本発祥の絵文字😄は，現在世界中で常用されるコミュニケーションツールになりました．それでは，我々は絵文字をどのように見えているのでしょうか？　本公演では，心理学の観点から絵文字がどのように解釈されているのかを調べた一連の研究と，その知見に基づいた絵文字による感情測定方法を紹介します．

**■ タイムテーブル**

| | |
|---|---|
| 13:00〜13:05 | 企画提案者による趣旨説明 |
| 13:05〜13:50 | 招待講演(1)　何 元元（千葉大学） |
| 話者交代時間 5 分 | |
| 13:55〜14:40 | 招待講演(2)　谷山 祐真（産業技術総合研究所） |
| 休憩 10 分 | |
| 14:50〜15:35 | 招待講演(3)　田和辻 可昌（東京大学） |
| 話者交代時間 5 分 | |
| 15:40〜16:25 | 招待講演(4)　沓澤 岳（産業技術総合研究所） |

**■ 企画提案者**　坂本 隆（産業技術総合研究所）